

# 知の拠点あいち重点研究プロジェクトⅢ期 技術セミナー「人工知能型対話技術のビジネス活用」

愛知県と（公財）科学技術交流財団では、「知の拠点あいち重点研究プロジェクトⅢ期」を2019年から実施しています。

このうち、研究テーマ「分野適応技術による自然言語処理技術のビジネス展開」において豊橋技術科学大学の井佐原特命教授らの研究チームは、文章から知識を取り出す人工知能（AI）技術、機械翻訳の分野適応技術、人間とコンピュータとの対話技術の開発を進めています。特に対話技術は

AI技術を用いて、チャットボットの高機能化や、情報検索におけるユーザ満足度の向上、介護施設において被介護者と対話できる介護ロボットの開発など、当地域のビジネス現場での活用が期待されています。

本セミナーでは、これらの研究開発成果を解説するとともに、その活用事例についての発表も行います。

参加費は無料です。多くの皆様の御参加をお待ちしています。

2022 **1.25** (火)  
14:00 ~ 17:00

参加費無料

事前申込制

募集定員（申込み先着順）

【会場参加】

**20**名

ウインクあいち15階  
研究交流センター\*

【オンライン参加】

**40**名

Web会議システム  
「Zoom」を利用

\*：愛知県名古屋市中村区名駅4丁目4-38  
(JR名古屋駅桜通口から徒歩5分)

基調講演

## 分野適応技術による自然言語処理技術の概要と対話システムの可能性

講師 豊橋技術科学大学 特命教授  
追手門学院大学 教授  
井佐原 均

講演

## AI技術を活用した産学連携による社会課題解決とDX人材育成

講師 名古屋大学 数理・データ科学教育センター  
特任教授 中岩 浩巳

技術相談

## 人工知能型対話システムのビジネス活用

講師 グローバルデザイン株式会社  
代表取締役 白旗 保則

## 人工知能型対話システムの構築技術

講師 株式会社ウォンツ  
CS4部 棚橋 優希

希望者と個別に井佐原特命教授による技術相談を実施します。

お申込みの際にお申し出ください。先着順に3件受け付けますが、別日程でも希望される方には対応します。

共催・申込方法・申込期限・問合せ先

### 【共催】

愛知県  
公益財団法人科学技術交流財団  
豊橋技術科学大学

### 【申込方法】

会場参加、オンライン参加いずれの場合も以下のURL又はQRコードからお申し込みください。

URL

<https://forms.gle/Y5brLcpaFnV98pUv5>

QRコード

（QRコードは株式会社  
デンソーウェーブの登録  
商標です。）



### 【申込期限】

2022年1月18日（火）

### 【問合せ先】

公益財団法人 科学技術交流財団  
知の拠点重点研究プロジェクト統括部  
担当：佐野

メール [juten-pi@astf.or.jp](mailto:juten-pi@astf.or.jp)

電話 0561-76-8370

# 講演要旨

## 分野適応技術による自然言語処理技術の概要と対話システムの可能性

講師 豊橋技術科学大学 特命教授／追手門学院大学 教授  
井佐原 均

要旨 人工知能型対話システムを中心に知の拠点重点研究プロジェクトで我々が行っている研究（文書からの知識獲得、分野に適合した機械翻訳、寄り添い型対話）の概要を述べる。また対話システムの要素技術である検索技術が様々な場面に応用できることを示す。

## AI技術を活用した産学連携による社会課題解決とDX人材育成

講師 名古屋大学 数理・データ科学教育研究センター 特任教授  
中岩 浩巳

要旨 名古屋大学では、岐阜大学、三重大学、広島大学と連携して、AI技術を活用し企業や自治体が持つデータからの新たな価値の創造、課題解決をする能力を養成するための、産学連携による実践データティスト育成プログラムを進めている。本講演では、本プログラムについて、AI技術を用いた社会課題解決のため実世界データ演習を中心に紹介する。

## 人工知能型対話システムのビジネス活用

講師 グローバルデザイン株式会社 代表取締役  
白旗 保則

要旨 人工知能型対話システムを利用することで、24時間365日間合せに対応でき、業務の省力化や効率化にもつながる。より精度を高めるためには技術だけでなくコンテンツの質もカギとなる。自治体での導入事例と検証結果を踏まえ、今後のビジネス活用の可能性を探る。

## 人工知能型対話システムの構築技術

講師 株式会社ウォンツ CS4部  
棚橋 優希

要旨 人工知能型対話システムを実現している自然言語処理技術(BERT)について解説する。特に対話における意味理解・応答を行う上でのポイントについて、例示を交え説明を行う。また、現在の実利用例を基に今後の更なる応用・発展を検討する。

BERT : Bidirectional Encoder Representations from Transformers